



コジュリンは全国的にも数が少ない。草原や葦原に巣をつくる【ホオジロ科・全長14.5cm・漂鳥】



利根川河川敷に広がる葦原が野鳥の生命を育む



冬はバードウォッチングにおすすめの季節



波崎愛鳥会の皆さん

野生の鳥は、病原体を持っている可能性があります。死亡した野鳥や排泄物には直接触れないようにしましょう。同じ場所ですぐさまの野鳥が死亡していたら、鹿行県民センターや市環境課へご連絡ください。

参考資料 『企画展 神栖町の野鳥』(歴史民俗資料館、『波崎の自然』波崎町、『神栖市野鳥ガイドマップ』波崎愛鳥会)

ひなが確認され、世界でも例がないことからニュースとなりました。こうした貴重なコアジサシが毎年たくさん飛来し続けるよう、大切に見守っていききたいですね。

利根川河川敷のオオセツカとコジュリン

柳堀さんの話から、波崎愛鳥会は野鳥観察を楽しむだけでなく、野鳥の調査活動や営巣地の保護活動などをしていくことを知りました。そもそも柳堀さんが野鳥に夢中になったきっかけも、神之池のビオトープにカワセミの営巣地をつくる活動をしたことだったそうです。カワセミはその美しさから「飛ぶ宝石」とも呼ばれ、バードウォッチャー憧れの鳥なのだとか。そう聞くと、いつか自分の目で見てみたいくなります。さて、バードウォッチングは双眼

鏡があればいつでもだれでも始められます。最初は慣れた人と一緒に出かけて、鳥の名前や特徴を教わりながら観察するのがおすすめ。「愛鳥会の仲間は、人に教えるのも楽しみのうち。初心者の方は大歓迎です」と柳堀さん。最後に、野鳥観察のマナーと心得を教えてくださいました。「二番肝心なのは、野鳥を驚かせないこと。いたずらに驚かせて警戒されると、もうその場所に寄って来なくなるかもしれません。ですから、見ないふりをして見る。それくらいの距離

感を保つのが理想です。もう一つ、釣り糸などが野鳥の足に絡まって死んでしまうことがあります。必ずゴミを持ち帰ることが、誰にでもできる自然保護活動だと思います。そういうことを心掛けた上で、一人でも多くの方に野鳥を見てもらい、好きになってもえればと願っています」

全国的にも貴重な鳥オオセツカ。利根川河川敷に生息している【ウグイス科・全長13cm・留鳥/夏鳥】



ユリカモメ。冬羽になると頭が白くなり目の後方に黒い斑点ができる【カモメ科・全長40cm・冬鳥】



コアジサシの求愛。砂浜に巣をつくって子育てをする【カモメ科・全長28cm・夏鳥】

「波崎漁港のカモメ類は、全国から大勢の愛鳥家

「波崎漁港のカモメ類は、全国から大勢の愛鳥家

全国的に有名な波崎漁港のカモメ

神之池の他に、冬から春先にお

驚きました。多いのはカルガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、マガモなどです。「非常に珍しいのは12月末から1月ごろに飛来するミコアイサ。目の周りが黒くパンダのような顔をしているので、パンダガモとも呼ばれています。以前は80羽以上いた年もありますが、だいぶ減って去年はわずか5羽でした。ぜひ見つけてみてくださいね」

砂浜に巣をつくるコアジサシ

ところで皆さんは、冬の海岸に

行ったことはありませんか？ 2月から3月ごろ、波打ち際にいるのはミユビシギの群れ。波と戯れるように砂浜を行ったり来たりしながら、ゴカイや貝などの餌を食べています。マリネリジャーで人気の市内の海岸も、愛鳥家にとっては貴重な野鳥の観察スポット。波崎漁港から日川浜までの海岸線では、一年を通してさまざまな野鳥が飛び交っています。

注目は、絶滅危惧種のコアジサシ。4月ごろから夏にかけて飛来し、繁殖のため砂浜に巣をつくって子育てします。2004年には波崎で国内最多の534巣が確認され、何千羽も群れをなして飛んでいきましたが、



ハジロカイツブリの群れ【カイツブリ科・全長33cm・冬鳥】



ミユビシギの群れ【シギ科・全長19cm・冬鳥/旅鳥】



北米に生息するアメリカコアジサシ。2014年、日本で初めて神栖市で確認された【カモメ科・全長23cm・夏鳥】

安心して営巣できる砂地が減って飛来数も激減してしまったりしています。波崎愛鳥会が長年にわたって取り組んでいるコアジサシの保護活動について、柳堀さんが話してくれました。「コアジサシは砂浜に直接卵を産んでひなをかえます。それを守るため、巣がある場所に車やオートバイが乗り入れないように、県の土木事務所にお願ひして日川浜海岸に柵と看板を設置してもらいました。また、営巣地だった利根川河口の導流堤が撤去されることになったため、国土交通省にお願ひして2010年に人工営巣地を整備してもらいました」